

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2294202078		
法人名	特定非営利活動法人 シンセア		
事業所名	グループホーム たみの里-向敷地(山側ユニット)		
所在地	静岡県静岡市駿河区向敷地1291-5		
自己評価作成日	令和4年8月12日	評価結果市町村受理日	令和4年12月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.nhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhou_detail_2016_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2294202078-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.nhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhou_detail_2016_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2294202078-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A
訪問調査日	令和4年8月23日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

当施設は、弊社5施設ある中で唯一の平屋建ての施設となっており、ユニットを仕切っている稼働式の壁を動かす事により広い空間を作る事ができます。市内にある施設とも協力イベントを行っていく方針です計画です。立地条件も非常に良く、少し歩けば向敷地公園があり、散歩のコースになり、散歩をしながら利用させてもらっています。公園への行き道が山になっており四季折々の花や果物がなっており入居者様も「キレイね～」や「アレ(夏みかん)美味しそうだ！」等、肌感覚で季節を感じられます。また、敷地内を近隣の小学生が通る為入居者様も子供たちを見かけると手を振ったりご近所の方に挨拶をされるなど地域との関係も良好です。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

「昔やっていたこと」「今できること」「季節を感じるもの」を意識した取組みでコロナ禍の重なりがちな雰囲気や打破している事業所です。プランターにはキュウリやブチトマト、シントウが夏の日差しに応じて実り、利用者が日課のように水やりをおこなっており、時には庭先で「サンマの炭火焼き」や「なんちゃんでイチゴ狩り(イチゴハウスにいるかのようにセッティング)」で外出気分を味わうほか、「(具材を)選ぶ」「(自分ではさむ)作る」の行動で意欲が高まるサンドウッチバイキングやお彼岸の手作りおはぎなど、毎日が「食」を通じて何かと賑やかで、通信から日常情報を得る家族からも評価されています。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝朝礼時に理念を唱和し職員全員が周知しています。毎日唱和することで、職員一人一人が理念を共有しより質の高いケアの実践に務めている。	「お客様第一主義」を基板に、法人全体で「生き生きする」をスローガンとして年間目標と月次目標に反映させ、各事業所が「ここがうちの自慢」「頑張っているところ」と競い合う風土が出来ていて、職員は自然に理念を実践しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	開所時より、近隣の小学校との交流がありました。今年度においてもコロナ禍の為、現在は施設の周りを散歩した際近所の方との挨拶をかわす程度となってしまっており、地域の方との関わりはほとんどできていない状況。	コロナ禍で思うような取組みとならず、事業所としてはもどかしいところですが、子どもたちの登下校には手を振ったり、「かわいいねエ」とつぶやき和んだり、やや一方的なものの関わりをもっています。	数メートルの場所にコンビニエンスストアがあることから、貴重な地域資源として隣近所の関係を築いていくことを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の方には、散歩などでお会いした際に大声などでよりご迷惑をかけていないか等伺い謝罪をし、挨拶させていただく際に、認知症の方への対応などについてもお話をさせていただき理解を深めていただけるよう説明をさせて頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナの為2ヶ月に1度施設職員のみで開催をし、報告予定だった内容を議事録に記載し作成し、ご家族を始め地域包括・介護保険課・自治会長に持参または郵送し、行政、ご家族には議事録の内容について意見を求めるコメントをいれさせていただきご意見をいただいた際には早期改善に務めている	運営推進会議は引き続き書面開催となっておりますが、昨年度の外部評価で目標とした「意見を集める」については、書面だけではなかなか集まらないため、管理者が電話フォローを増やすなど尽力しています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護相談員の定期訪問もコロナ禍の為現在は中止している。問題が発生した場合には介護保険課及び地域包括支援センターに相談していく体制としている。	静岡市からのメール配信は必ず確認しており、地域包括支援センターには定期的に空室情報をFAXで入れています。此処一年紹介入居の実績例はありませんが、地域包括支援センターから問い合わせはもらえています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	今年度も身体拘束0宣言をすると共に、2か月に1回研修を実施し、身体拘束に対する職員の意識を高めるよう務めている。また、身体拘束0を継続している。	運営推進会議開催の頻度と同じくして「身体拘束と廃止委員会」を運営しています。話し合う場を通常より2回増やしていることもあり、最近では「ちょっと待って」「ダメだよ」といったスピーチロック的な言葉が大幅に減少しています。	「BPSDの対応についても職員間で～」と議事録にありますが、委員会は報告連絡会に留めず、「具体的に対策をどうしたか」「今後望ましいことはなにか」など、事例検討をおこなうことを期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内において定期的に繰り返し高齢者虐待防止に関する研修の実施をする事で、職員の高齢者虐待防止への理解と意識を高め虐待防止に努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見制度を利用している方はいないが、パンフレットを自由に閲覧できる環境を作っている。更に、状況に応じて必要なサポートを行うと共に必要に応じてご本人及びご家族様への助言等も行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居相談があった場合、施設見学を必ず行い、不明点などが無いよう丁寧に対応している。また、契約に際しては、ご本人様・ご家族様にできるだけ分かり易く説明するように務め、且つ質問や疑問があればその都度ご理解いただけるようお答えしている。 必ずご理解、納得の上で入居契約を結ぶよう徹		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ禍の為運営推進会議は施設職員のみでの開催となっているが、ご家族様に任意でメールを登録して頂きメールで要望やご意見などをいただく他、近況報告でお電話をした際にもいただいている。また、動画配信により施設内での様子がよくわかりとてもありがたいと喜びの声も多数いただいている。	家族アンケートでは「職員がとても明るく優しい」との意見が少なくありません。面会は携帯電話片手での窓越しが定着しており、なんとか会えてはいます。また動画配信もおこない、中の様子が把握できるようにと、家族の気持ちに配慮しています。	「ラインで動画や写真を送ってもらえ、笑顔が見られて嬉しい」という家族のためにも、送信の間隔を縮め、また頻度にも差がないよう工夫を期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝の朝礼・各ユニットでの申し送りでは、全入居者様の情報共有を行っており、様々な角度からの提案や改善についての意見が職員からでている。 また、月1の定例会及び本部と施設管理者との月一MTなどでも、施設の意見を吸い上げていただく機会として設けている。	制度や働き方などへの意見は特段ありませんが、法人がSDGsの一環として「不公平をなくそう」に着目しており、障害者雇用も大いに受け入れていくとしていて、差別意識の排除を超えるチームワークが培われています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年1回、職員個人の実績・勤務状況を評価し、やりがいや向上心を持てる環境作りには会社全体で取り組んでいる。また、年に2回の評価表に基づき職員一人一人の頑張っているところや努力目標を適切に評価し本人の能力を更に引き出せるようフィードバックも行っている。また、パートから正社員への登用機会も年2回設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定例会での社内研修や、本部での社内研修を定期的に行う事で職員一人、一人のスキルアップに繋げている。また無資格者にも積極的に資格取得をしていくよう法人全体でバックアップ体制をとって資格取得に向けて支援している。。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在はコロナ禍の為ほとんど交流ができていないが、ズームなどでの外部研修を実施したり、関連企業ともオンラインでの交流の機会を設けサービスの質の向上に務めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者様の意見や話は入居以前より傾聴に務めるとともに可能な限りご本人と会話する時間を作り不安の解消に務めている。 また、日中・夜間もご本人の言動を聞き逃さず、職員間での情報共有をおこない、入居者様に安心できる環境の提供に務めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居間もないご家族様には特に入居後の様子を細目に電話連絡をさせていただき、その際に心配事や困り事、要望等や現在ご家族が抱えている問題について相談のり対応していく事で安心して任せていただけるよう、信頼関係の構築に務めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	とで病状の悪化防止やADLの低下防止ができるよう、常に職員からの情報収集を行いその方に適時必要なサービスの提供ができるよう務めている。医療面においては早期に主治医、ご家族と相談を行い訪問看護の導入を実施し医療体制を整えている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の出来る事を継続して行える様日常生活の中で役割を持って頂き生活意欲の向上に繋がるよう支援するとともに、洗濯、調理等を一緒に行う事で共に協力しあい生活ができるよう日々務めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍ではあるが、必要に応じてご家族に受診等をお願いし協力して頂きながら、ご本人の意向に沿った生活が可能な限り営めるように支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現状はコロナ禍で外部との接触はほとんど出来ていないが、ご本人の馴染みの関係を保つ目的として行きたいところへはドライブという形で対応し馴染みの関係や、今までやって来た事をご本人が出来るだけ継続できるよう務めている。	家族が不要品として寄贈くださったタオルで雑巾を縫ったり、ズボンのほつれを修繕くださる人、家宅からの習慣を続けプランターの水やりを欠かさない人、若い頃からのモーニング珈琲を継続する人、それぞれのこれまでの生活が続くよう支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	パーティーションを開放する事でイベント等で皆さんで交流する場を提共し利用者様同士がコミュニケーションを取れる場のと機会の提供を行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	施設内で確認できる情報を次の施設に可能な限りわかり易く提供できるよう務めている。また、問い合わせがあった際には迅速かつ丁寧な対応に務めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の生活歴・趣味嗜好から可能な限り思いや意向を取り入れ生活のスペースのお部屋等の環境整備を行い目から入る情報からもご本人の意向に沿うように配慮している。	珈琲を豆から挽いて、職員が喫茶店のマスターに扮する日もあり、ソファやベンチでゆったりと語り過ごすことも大切にしている、それでも思いが拾えないときや落ち着かない様子がみられるときは24時間シートなどで紐解いて確認しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	新入居時にご本人の今までの生活史が詳細に把握できるようご家族からご本人の生活史がわかる書類の提出をお願いし、ご本人の生活史の把握に可能な限り務めている。また、ご本人とコミュニケーションをとる中で職員は常に情報の収集に一人一人が務めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者様の状態の変化やその方の出来る事は経過記録等に詳細に記載し職員間で情報の共有をすると共に、状態の変化が見られた際にはすぐに管理者へ報告する体制をとっている。また、必要に応じて主治医に連絡をし早期対応に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定例会時に多数の職員でモニタリング、カンファレンスを実施する事により、状態の変化や日々の対応について細かく検討し介護計画に落とし込んでいる。また、入居者様ご家族様の意向・要望も可能な限り取り入れて作成している。	計画作成担当者1名と、計作兼務の介護支援専門員1名が各ユニットに配され、近年には珍しい潤沢な配置です。毎月居室担当者を中心にカンファレンスをおこない、状態変化について職員間で共有して現場に反映させています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	出来るだけ日々の、経過記録については詳細に記入するよう指導を定期的に行っている。また、1日の中で気づいた点、変更点、注意点等に関しては1日3回ある職員間の申し送り時に情報の共有を行い、更に申し送りノートに記入する事により情報の共有に務めご入居者様のケアに反映できるよう務めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の状態の変化に応じその都度検討会を行い、その方の状態に合ったサービスの提供と、必要に応じたサービスの提供が柔軟に行えるよう務めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍の為、現在地域の方との交流はできていないが、地域との関わりを継続できるよう、コロナの状況を見ながら運営推進会議も現在の施設内のみでの実施ではなく、近隣の方に少しずつ参加していただけるよう感染状況を見ながら行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	現在透析に行かれている入居者様の透析日の乗降の支援や、必要に応じて、専門医への受診対応の支援を随時行っている。	1回に18名全員診察をおこなう訪問診療医が隔週で来所しています。何かあれば専門医も紹介くださり、また自身も必要であれば休日も往診と、親身な対応です。また家族が高齢等で難しい場合は職員が専門医への通院介助をおこなっています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日のバイタル測定をベースに、必要に応じて訪問看護師に相談し指示を仰いでいる。また、週1回の訪問看護師の来所時に日々の情報提供を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	コロナ禍の為ご本人への面会がなかなか難しい為入院中の状況把握の為、病棟へ定期的に電話し情報提供をして頂いたり、ご家族様へ連絡を取らせて頂き状況把握に務める事で、退院後の対応がスムーズにできるようになっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	施設での有取りを希望される方には医師とのムンテラを繰り返し行い、ご本人、ご家族の意向に沿った対応を可能な限り対応できるように務めている。意向の確認においても随時行う事で終末期の対応の意向のずれが生じないように情報の共有と支援を行っている。	此处一年看取りはなく、近年は「最期は医療を～」との家族希望で入院を経て病院で亡くなるケースが増えています。事業所としては希望があれば看取りに取り組む態勢にあり、協力医も24時間対応で安心です。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応等の研修を定期的の実施するとともにかかりつけ医・訪看から応急手当等行う際には常に指示、指導をもらえる環境体制を作っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に3回以上の防災訓練を実施しており、人員の少ない環境下の夜間を想定した訓練も実施している。新入職員に対しては消防への通報訓練を実施し緊急時に備えている。また、防災訓練時水消火器を使用した訓練の実施を今後実施する予定。また、町内会長からは、災害時は避難場所まで距	日中・夜間想定年2回の法定訓練の他に水害対策を加えて年3回の実施とし、防災訓練に手厚く取り組んでいます。備蓄も7日分を目指し、ローリングストックを含みつつ徐々に増やしており、有事の際の独居老人の受け入れも視野に入れていきます。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレ使用時には必ずトイレのドアを閉め、居室での更衣介助、排泄介助の際には必ず、カーテンを閉めるなどプライバシーの保護の徹底に日々務めている。脱衣スペースにはカーテンをつけプライバシーの保護に務めている。	呼称は基本「～さん」ですが、利用者ファーストの観点から「本人が飲む呼び方」も選択していません。裁縫の先生だった人は今でも師範であると思っているため、「先生、これをお願いしてもいいですか?」といった聞き方をすると、意欲的に針を動かしてくださいます。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	月に何回かある「お楽しみメニュー」や飲み物を提供する際や更衣の際にご本人が選択ができるようご可能な限りご本人の自己決定の場を設けるようにしている。 コロナ以前については、日常品を購入の際には、ご本人と一緒に買い物に行き選んで頂いていた。現在はコロナ禍の為カタログ等で選択していた		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間や、消灯の時間についてもご本人の意向に沿った時間に合わせたケアに心掛けている。ご本人の中の時間に合わせた支援する事で、一人ひとりのペースを大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	いつまでも女性らしくありたいという思いに沿えるようご本人の希望に合わせた買い物支援(口紅、白髪染め等)を行う事でご本人の満足できるおしゃれができるよう支援している。二カ月に1回訪問理美容も実施している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	週2回以上のお楽しみメニューや、季節のメニューを取り入れる事により食に対する意欲の向上に繋がっている。また、毎日の日課として食事の準備や片付けを職員と一緒にしている。	「お楽しみメニュー」が頻回におこなわれる中、ホットプレートとたこ焼き器がセットになった大きな調理用具を購入、皆で育てた夏野菜をつかって手作りしたり、スイーツバイキングで甘いものにどっぷり浸かる一日を過ごす等、食の楽しみを掘り下げています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養状態の悪い方には補食としてメイバランス等を提要させていたき栄養状態を維持できるよう支援している。更に医療と連携をとり一人一人の食事状態を共有する事により一人ひとりの状況に応じた対応を敏速にできるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	1日3回口腔ケアを実施し、入れ歯については毎日洗浄薬にて洗浄を行う事で清潔の保持に務めている。また、自立度の高い方においても確認をおこない必要に応じ仕上げ磨きを実施する事で口腔内を清潔に保てるよう支援している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを記録し、職員全員が状況に応じ早めに声掛けを行う事で、出来るだけトイレで排泄ができるように支援している。また、布パンツで過ごしている方がリハパン等にならないよう職員が支援している。	紙に執着がある人は拭いた後のペーパーを自室に持ち帰りたく、都度職員が本人の納得がいくような声かけをして返してもらい、とのやりとりが毎日ありますが、他はほぼ通常の支援で維持ができていて、リハパンから布パンへの向上例もあります。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	訪問看護師さんに入っていた事で、排便が定期的に見られない方においては医療的対応をおこなっていただく事で、イレウス等の予防に務めている。また水分の促しをすることにより便秘が解消できるよう務めている。毎朝のヨーグルトの提供も便秘の解消の1つの方法としている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	汚染時等は入浴日に関わらず入浴していただけよう対応し、常に清潔で気持ちよく過ごしていただけるよう務めている。またご本人より入浴日以外にも希望があった場合には可能な限り意向合わせ入浴支援を行っている。	お風呂は一人ひとり湯を張り替え、清潔を保っています。また個々の湯ということで、3種類ある浴剤の中からその日の気分で選んでいて、皆が一番風呂を楽しんでいます。着脱着衣で傷などを見つけた場合は速やかに医師に連絡、指示を仰ぐというルーティンも確立しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	布団干し、シーツ交換も毎週行い、気持ちの良い環境で休んでいただく事で安眠の確保に繋げている。また、安眠を促すための足浴やアロマ等の取り組みも行っている。また、不眠時にはホットミルク等の提供も行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医療連携の連携を密に取り、その方の内服薬を常に状態に即しているか見直す事で、薬の量を減らす事や、居宅療養管理指導の導入により安全に誤薬や飲み忘れがないよう管理する環境ができています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日の生活の中で洗濯たたみや食器拭きなど、施設での役割を持って生活していただけるよう支援すると共に楽しみメニューに可能な限りお一人ひとりの嗜好を取り入れる事により生活意欲が向上し楽しみをもち生活できるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	コロナ禍の感染拡大によりなかなか、外出支援が難しいが、天候に合わせてドライブを実施することで車窓から、景色をみていただいたり施設のまわりの散歩をする事で季節感を感じていただけるように可能な限り務めている。	コロナが下火となった昨年秋口には日本平に出かけており、常にチャンスを覗ってはいますが、現状は降りないドライブでの花見が中心です。桜の花見をテーマに室内を壁面装飾や生花でコーディネートして、花見弁当を囲み、昭和歌謡で盛り上がった思い出の日もあります。	



自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナ禍の為買い物と一緒にいく事はできていないが、コロナの状況を見ながら、ご本人と一緒に買い物に行く機会を作り支援していくよう検討中。現在はカタログやチラシを見ながらご本人に購入品を選んでいただき買い物支援をおこなっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	テレビ電話でご本人の顔を見ながら会話していただく事でご本人の表情や元気な様子が伝わり御家族から喜びの声を多くいただいている。お手紙を希望される入居者様御家族様においてはご本人の状況に合わせた支援をおこなっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節にあった飾り物や装飾を施設内に掲示したり飾る事により可能な限り季節感を感じていただけるようにしている。また、ご入居者様のお好きな曲を聞いていただく事により落ち着いて穏やかに過ごせるよう務めている。	一人ひとりに好きな歌を聞いて廻り、YouTubeで流す午後があったり、食事では癒やしの音楽をかけて咀嚼を助け、七夕には生の竹笹に願い事を吊るすなど、共用空間は穏やかな気持ちになれるものを用意して、利用者の環境を整えています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	席を自由に移動し、山側、川側の行き来を仕切りを外して互いに交流を持てる環境の提供をしている。現在はコロナ拡大の為ゾーニングの為中止している。ご夫婦様で入居されている方もいる為自由に行き来できる環境の提供を今後の可能な限り行っていきたい。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様の使い慣れた、馴染みのあるものを可能な限り持ち込んでいただく事で安心できる環境を作り、落ち着いて過ごしていただけるよう、可能な限り配慮している。また、居室の環境整備を行う事で安全に居室内で過ごしていただけるよう支援している。(動線の確保)	「リビングにあるソファででの立ち上がりが心配なためつかまり立ちできるよう専用テーブルを置いた」、という人を筆頭に、誰もが転倒は気がかりなため、動線確保の他にも訪室回数を増やすなどして見守りを強化しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全てのドアをオープンにし自由に施設から出れる環境を作り、花壇の水やりや、洗濯物の取り込みなど所在をしっかりと確認し見守りを行う事で自立に向けた生活を送れるよう取り組んでいる入居者様の自立支援のサポートを行っている。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2294202078		
法人名	特定非営利活動法人シンセア		
事業所名	グループホームたみの里一向敷地 (川側)		
所在地	静岡県駿河区向敷地1291-5		
自己評価作成日	令和4年8月12日	評価結果市町村受理日	令和4年12月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.nhw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kami=true&amp;JigyosyoCd=2294202078-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.nhw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kami=true&amp;JigyosyoCd=2294202078-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	令和4年8月23日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

当施設は、弊社5施設ある中で唯一の平屋建ての施設となっており、ユニットを仕切っている稼働式の壁を動かす事により広い空間を作る事ができます。市内にある施設とも協力イベントを行っていく方針です計画です。立地条件も非常に良く、少し歩けば向敷地公園があり、散歩のコースになり、散歩をしながら利用させてもらっています。公園への行き道が山になっており四季折々の花や果物がなっており入居者様も「キレイね～」や「アレ(夏みかん)美味しそうだ！」等、肌感覚で季節を感じられます。また、敷地内を近隣の小学生が通る為入居者様も子供たちを見かけると手を振ったりご近所の方に挨拶をされるなど地域との関係も良好です。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

「昔やっていたこと」「今できること」「季節を感じるもの」を意識した取組みでコロナ禍の重なりがちな雰囲気や打破している事業所です。プランターにはキュウリやブチトマト、シントウが夏の日差しに応じて実り、利用者が日課のように水やりをおこなっており、時には庭先で「サンマの炭火焼き」や「なんちゃんでイチゴ狩り(イチゴハウスにいるかのようにセッティング)」で外出気分を味わうほか、「(具材を)選ぶ」「(自分ではさむ)作る」の行動で意欲が高まるサンドウッチバイキングやお彼岸の手作りおはぎなど、毎日が「食」を通じて何かと賑やかで、通信から日常情報を得る家族からも評価されています。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝2ユニット合同での申し送り時に経営理念の「生き生き生きる」を唱和及び職員から「good&new」を発表して貰い朝から楽しい気持ちで職員がケアに取り組める様になっています。又、方向性を統一し質の高いケアの実現にも役立っています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所を散歩中にご挨拶から会話に繋げたり地域の催し等に参加して地域と密接な繋がりが持てる様になっていますがコロナウィルス感染拡大から外出や来客は遠慮して頂き感染予防に務めている。コロナの感染状況により再開していきたい。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナで地域の方々に認知症に関する理解や支援方法をお伝えする機会はほとんどないが、現況でも出来る事を発信できるよう可能な限りと努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度開催し、各協力機関にアナウンスさせて頂いていたが現在は、コロナ渦の為中止とし施設職員のみでの開催としている。議事録を作成し、ご家族を始め地域包括・介護保険課・自治会長に郵送させて頂いている。今後コロナの感染状況により外部も招いて開催を検討中		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	静岡市介護保険課・地域包括には運営推進会議の案内と議事録・身体拘束廃止委員会の議事録を提出している。また介護相談員に(現在は中止中)定期的に訪問していただき市長村との橋渡しをしていただいている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロ宣言をし、玄関の施錠はせず自由に出入り出来る様にしている。今迄に身体拘束を行った事例はないが、経験の浅い若いスタッフが多い為定例会等で社内研修を実施し身体拘束への理解を深めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束と同様、内部研修会を定期的に行い職員一人一人が理解を深め防止に向けたケアに取り組みや不適ケアがおきないように指導している。また万が一発生した時は管理者に報告し話し合いの場を設け再発防止に努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護を使われている入居者様は現在いない。いつでも閲覧でき活用できる支援体制をとっている。またご家族、ご本人が相談し易い環境の提供にも務めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の相談を頂いた際には必ず施設見学をして頂き相談やお困り事を伺い、入居者様・ご家族様には十分、説明を行い、理解していただいてから入居契約を行っている。また、質問や疑問・不安点を伺い不安の軽減を図れるよう務めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ禍で面会の機会が少ないことからテレビ電話や動画の配信や月1回のお便りで情報を発信し電話では日頃の様子をお伝えしながら、ご家族様の意見や要望を伺い信頼関係の構築に日々努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定例会の際に意見交換の機会を設け日常業務の中でも職員とコミュニケーションをしっかりと取り意見等、話しやすい環境作りに務めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年一回の表彰では職員個人の実績・勤務状況を評価しやりがいや向上心を持ってケアに取り組める環境作りに務めている。また、年2回の自己評価・現場評価を行い昇給などの参考にし職員がスキルアップに繋がるようにフォードバックを行っている。年二回の正社員登用制度あり		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の定例会で研修の時間を設け、勉強会を実施し職員の知識向上に務めています。又本部研修でも定期的にフォローアップ研修を実施しており職員のスキルアップに繋がっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナウィルスの影響で現在は出来ていないが、長田地域密着連絡会に参加させて頂き意見交換し情報共有を図りサービスの質の向上に取り組む運営推進会議においても意見交換をしていた。今後もコロナの状況を見ながら再開していきたい。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居の相談・申し込みを頂いた時から要望や困り事を伺い可能な限りご希望に添える様に考慮し寂しさや不安にならない様職員が出来る限り寄り添い関り、安心して安全に施設生活出来る環境作りを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時にご本人の今迄の生活環境や身体状況、またご家族様の困り事等も伺い問題点や要望に耳を傾け傾聴し信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居申し込み後ご本人様と面談し、アセスメントを行い必要とする支援の把握に務めている。又、居宅の担当者や施設ケアマネ・介護事業者からご本人の情報を頂き初回ケアプランに落とし込みご本人に状況に合ったサービスの提供に務めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩としての尊敬の念を持ち個々出来る事を模索し日々の生活の中で活せるよう支援し、役割を持っていただく事で生きがいに繋げられる様生活を共にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様・ご本人様の想いを尊重し、真摯に受け止め、良好な関係が継続出来る様に努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在はコロナの感染拡大の為ご家族様以外の面会のご遠慮頂いていますが、以前は制限なく面会に来て頂ける様にお伝えし馴染みの方との面会のできる機会の提供もなじみの関係が継続できるよう支援していった。今後も可能な限り馴染みの関係が継続できるよう支援していきたい		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	山側・川側関係なく交流を計り又、入居者様同士の会話の橋渡しをし良好な関係が築けるように支援している。コロナ感染拡大により現在はゾーニングの為交流は中止している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了してもご家族様ご関係者様に相談等いただいた場合には必要に応じた対応をさせて頂き支援に努めております。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前の情報収集で得た情報に基づき、日常生活の中で入居者様の趣味や嗜好またご意向を把握し思いを言葉に出来ない入居者様のアドボガシーとして努め思いを汲み取る様努めております。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人・ご家族様から聴き取りをした馴染みの生活や暮らし方また、居宅・施設サービスを利用されていた方はケアマネや介護事業者から情報を提供していただき把握にこれまでの暮らし方や生活環境が継続できるよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中から個々の心身状態を観察・記録に残す事で出来る事・好きな事等を把握し申し送りやノートを活用し職員同士情報共有に努め日々のケアに活かせる様努めております。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様・ご家族様の要望を職員間で共有し毎月の定例会でモニタリングを行い日常の心身状態の変化を意見交換し、ご本人・ご家族へのモニタリングの内容も介護計画書に反映させている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のケース記録や日誌に日常生活の様子を記録し、その中で気づいた事は職員間の申し送りで随時共有しプランの見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族様やご本人からの相談や依頼内容及びニーズに合わせ受診の送迎や買い物代行等、柔軟なサービス支援に取り組んでいます。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ過で自粛する事は多いが、その中でも今、出来る事として駐車場内で外気浴や、食事の提供を行い、少しでも屋外で過ごせる工夫をしている。ドライブもコロナの感染の状況を見ながら実施し、季節感を感じていただけるよう支援していきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係構築しながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホーム協力医の往診が月2回あり入居時に同意を得ている。状態により緊急受診の支援や協力医へ相談をし医療連携の強化を図りご家族様にも適時報告・相談させて頂く事で、早期に適切な治療へと繋げている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回、訪問していただき健康管理をしていただき、介護職では出来ない排便のコントロール等(摘便)おこなって頂く事で異常の早期発見に繋がっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	コロナ禍の為ご本人への面会がなかなか難しい為入院中の状況把握の為、病棟へ定期的に電話し情報提供をして頂いたり、ご家族様へ連絡を取らせて頂き状況把握に務めている。また退院後の対応がスムーズにできるようにも務めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	施設での看取りを希望される方には医師とのムンテラを繰り返し行い、ご本人、ご家族の意向に沿った対応可能な限りできるように務めている。意向の確認においては随時行い終末期の対応の意向のずれが生じないように務めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応等の研修を定期的実施するとともにかかりつけ医・訪看から応急手当等行う際には常に指示、指導をもらえる環境体制となっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に3回以上の防災訓練を実施しており、人員の少ない環境下の夜間を想定した訓練も実施している。新入職員に対しては消防への通報訓練を実施し緊急時に備えている。また、防災訓練時水消火器を使用した訓練の実施を今後行っていく予定。また、町内会長からは、災害時は避難場所まで距離がある為、動かず助けを待つ方が良いのではと助言も頂いている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として人格を尊重し言動には十分、注意を払い、不適切な言動が見られた時は職員全員が互いに声を掛け合い注意している。また、排泄や入浴時にはプライバシーの保護に務め配慮している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の会話の中から嗜好を伺い参考にしたりお誕生日や行事食等は入居者様に相談して決めています。飲み物は毎回ご本人に選択していただき、自己決定出来る機会の提供を行う事で支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れは決まっているが、その中押し花を楽しんだり電子オルガンに合せ唄を唄ったりと個々の楽しみ方も尊重しながら、サービス提供に取り組んでいます。また、ご本人の中に時間に合わせたサービスの提供に務め起床や就寝時間もご本人の時間に合わせている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	明日の洋服を就寝時に職員と一緒に選んだりしている。また2ヶ月に1度訪問理美容にて、お好きな髪形にカットして頂きおしゃれを楽しんでいただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日や行事食のメニュー等、入居者様と相談して決めたり食器拭き等、スタッフと一緒に会話を楽しみながら毎日行っています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量等は記録に残し個々に合った食事を提供しています。又、飲み物は常時、数種類用意し好みに合わせて選んでいただき提供しています。また、コーヒーを飲む習慣の方にはコーヒーの提供を毎日行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の習慣として、口腔ケアの声かけを行い、必要に応じた介助を実施しています。磨かれた後はスタッフが確認し清潔の保持に務めています。就寝時は義歯毎日消毒します。又、食前は口腔体操を実施し口腔機能の向上を図っています。		



自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を記録し個々の排泄パターンを把握しトイレの声かけ・誘導をしています。夜間帯は開眼時に声かけにてトイレに誘導を行い、トイレでの排泄が維持できるよう支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝ヨーグルトを提供し日々のメニューも水溶性植物繊維の食材を利用するなどして便通の改善の工夫をしています。又、食後は必ずトイレにご案内し自然排便を促しており体操や歩行運動を取り入れ排便コントロールをおこなっています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週に2回の入浴を基本としているが排泄等で汚染した場合には、状況に応じた対応をしている。入浴日以外は足浴・陰洗を行い清潔保持に務め気持ちよく過ごしていただけるよう支援しています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	シーツ交換も毎週行い、気持ちよく環境で休んで頂いています。居室の温度や湿度も快適に休んで頂ける様に常に快適な温度調整を心がけています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書をファイルに綴じ、いつでも確認出来る様に状態にしている。往診時に薬剤変更があった場合、症状に変化が現れた時は医師・薬剤師に相談し、その都度、対応しています。居宅療養管理指導の導入し薬の管理により誤薬等の改善ができています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の会話の中から嗜好を聞き取り、どの様な提供の仕方が良いか常に検討しながら楽しみや、役割を持ち、趣味を楽しむ時間を提供し毎日張りの有る生活が送れる様に支援している。また、施設での役割を決め支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で外出はままならないが駐車場で外気浴を楽しんでいます。又、コロナの感染状況を見ながらドライブにも出かけ気分転換できるよう支援していきたいと思ひます、		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には入居者様が金銭を持つ事はしていませんが職員と一緒に買い物に出かけ、お好きな物の購入できる機会をもって頂きたいと思います。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様に職員が電話をかけお話しが出来る支援をしています。またテレビ電話を実施することで、コロナ禍で面会がままならない状況の改善に繋げている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間には作品を壁に取り付け、スタッフと一緒に作った季節の作品を飾り季節感をだしています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日中、過ごすテーブルの配置・席の配置は状況に応じ変更している。又、ソファで過ごされる方もおり皆様、思い思いに自分の心地よい環境で過ごされています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	可能な限り家で使っていた馴染みの物を使って頂く様支援しご本人様が居心地よく過ごして頂ける様に配慮しております。また危険の無い様居室内の環境整備にも注意を払っています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下・トイレ・浴室には手すりを設置。トイレを示す表示や居室前にはご本人の名前プレートの設置しご本人が移動しやすい環境の提供と、日常の中で生活リハビリを取り入れ自立した生活に少しでも繋げられる様に日々務めている。		